

市民協働事業 相互評価シート

1 市民協働事業の概要

事業名称	第9期神奈川区地域づくり大学校	
事業の実施者	団体等	特定非営利活動法人 親がめ
	行政	神奈川区 区政推進課
事業の目的	地域で何かやってみたいという思いをもつ区民が、地域活動・グループ活動のエッセンスや必要なスキルについて、対話形式の連続講座で学び合う。希望者には現場での活動体験も実施する。受講生同士のネットワークをつくり、学びや体験をもとに、新たな活動へ踏み出し、既存の活動の幅を広げ、地域をより豊かにするさまざまな活動をすすめていく。	
事業の内容	別紙チラシ参照	
役割及び責任分担等	別紙参照	
実施期間	2023年6月30日～2024年3月31日	

記入日	2024 年 3 月 25 日
記入者	・団体等名： 特定非営利活動法人 親がめ ・記入責任者 氏 名： 塚原 泉 連絡先： 045-441-3901
	・部署名： 神奈川区区政推進課 ・記入責任者 氏 名： 佐藤 千香 連絡先： 045-411-7026

1 事業実施プロセス相互チェックシート

このチェックシートは、事業実施に伴う、それぞれの段階で、必要なことができたかどうか、相互にチェックをおこなうシートです。相互の視点からチェックを行い、その後、「2 事業評価相互検証シート」で総合的な評価検証をおこないます。

◎相互チェックシートの評価基準

よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	まったくできなかった
A	B	C	D

①事業計画段階

		団体等	行政
1	自分たちが達成すべき大きな目的やミッションについてよく話し合うことができましたか。	A	A
2	お互いの立場や組織の違いを話し合ってよく理解することができましたか。	A	A
3	ニーズを把握して共有するとともに、この事業の目標と実施方法を話し合って決めることができましたか。	A	A
4	実現のためにそれが何ができるかを考え、話し合って役割分担を決めることができましたか。	A	A
5	会計のルール等、お互いの組織内部の取り決めについて、説明し合ってよく理解することができましたか。	A	A
6	事業を始めることや計画中であることを、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	A	A

②事業実施段階

		団体等	行政
1	率直な意見交換のもとに、お互い対等な立場で事業をすすめることができましたか。	A	A
2	お互いの強みや得意分野を、どう生かし合えるかを考え、提案しながら取り組むことができましたか。	A	A
3	相手に任せっきりにせず、お互いが役割を自覚して積極的に取り組むことができましたか。	A	A
4	事業の進捗に応じて、目標、ニーズ、対象、実施方法などをふりかえり、修正しながら取り組むことができましたか。	A	A
5	必要に応じ、関連する他の部署や団体などを巻き込みながら事業をすすめることができましたか。	A	A
6	事業終了後の見通しについて、話しながら取り組むことができましたか。	A	A
7	事業の進捗状況を、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	A	A

③ふりかえり段階

		団体等	行政
1	協働することで、単独でおこなうのに比べてどのような効果が得られたか、話し合って共有できたか。	A	A
2	受益者が満足を得られたかどうかについて、話し合って確認することができたか。	A	A
3	これまでを振り返って、お互いの考えに相違点がなかったかについて話し合い、確認する事ができたか。	A	A
4	期待された事業成果を得られることができたか。	A	A

3 事業評価相互検証シート

事業実施プロセス相互チェックシートでおこなった結果をもとに、相互で本検証シートを作成します。

事業の計画づくり

(協働して事業計画をつくるにあたり、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- ・ 協働二年目にあたる本年はスタート期に、事業における目的や理念について確認しあうのみならず、昨年をふまえさらに充実したものにするためにという視点で意見交換ができたことで、それに基づいたプログラムの組み立てを考えることができた
- ・ ケアプラザコーディネーターや区民活動支援センター職員等、各中間支援組織のコーディネーターの参画について、事務局において具体的な役割を検討し、事業初期段階からそれぞれに依頼することができた
- ・ 受講生が地域で活動していくうえで、自治会町内会の人と出会い、連携していくことの大切さについて共有し、本事業内の交流の機会について検討を重ねた
- ・ 発信力の強化のための新たな試みとして、幅広い層への周知をはかるべく、PR動画の作成を企画した。また、各回の内容についても事業開催時期に並行して発信ができないか検討し、区のホームページにかわら版として掲載することを企画・実施した
- ・ 事務局の運営について、対面での打合せに加え、メール・電話での連絡を密に、事業計画の進捗状況や役割分担の確認を行い、さらに、新しいアイデア等について、チームで建設的に話し合うことができた
- ・ 第一線で活躍する講師からの知見を学ぶ講義型の内容に加えて、受講生の地域づくりへの動機や交流、卒業後のつながりづくりや実践への第一歩を大切にしたワークショップという「学び」と「対話」両方の意義やバランスをともに考え、内容を組み立てることができた

【今後改善が必要と思われること】

- ・ 募集期間が夏休み期間と重なり、締め切り間際まで応募人数が増えなかった。共催相手である区連会の開催も考慮して開催時期を企画する。また、関心のある若い世代を受講に結びつけるため、大学や専門学生等への効果的な周知を検討していく
- ・ 実際に活動を肌で体感する試み「現場へGO」について、その参加者が伸びなかった。現場を知る意義は大きいことから、関心のある受講生それぞれにあった団体を個別にすすめる等、働きかけの工夫が必要

事業実施

(協働して事業を実施した結果、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- ・ 各回終了後に、ふりかえりをその場で持ち、事務局間で感じとった率直な意見共有をしたことが次回以降のプログラム企画に活き、全体を通して受講生の声や目的に沿った事業展開ができた
- ・ 各回プログラムについて、打ち合わせであらかじめミッションを共有しておくことで、細かな時間設定にとらわれず、その場でリアルタイムに起きる対話と学びの収穫を得られるよう、チームが臨機応変に動くことができた

- 受講生ひとりひとりの相談会の様子を共有し、そのあとの卒業式である第5回を発表のみで終わらせず、「終わりがはじまり」として、卒業後に一步踏み出すための時間を設けるよう企画したこと、受講生発信のアクションが複数生まれた

【今後改善が必要と思われること】

- 卒業生の活動において、連合町内会単位で十分に理解が得られなかっただ例があった。地域における理解には顔と顔の見える率直な関係や時間が必要ということをあらためて認識し、卒業生へのフォローにおいては、地域のコーディネーターや自治会町内会との連絡・調整・関係づくりが肝要であるという原点を確認する機会となった

事業の成果

(協働して事業を実施した結果、当初期待された事業効果がどのような成果となりましたか。)

- 卒業生のすすめで応募する人や、すでに自身の関心のあるテーマをもって地域で活動中の人の応募が、今回も多く、企業等も含め、多様で積極的な層をとりこみ開催できた。このことは、地域づくり大学校が9期を数え、この事業自体の周知が広がり、220名を超える卒業生が実際に地域で活躍していることの効果の顯れである。今後さらに重要になっていくICTへの取り組みも、期を越えた卒業生グループによってつながり、卒業生それぞれの活動を見る化したマップ、地域づくり大学校応援サイトとして運営がなされていることは、今事業の積み重ねの大きな成果である。
- 今回の講座内では対話の時間を多く設け、受講生同士の交流を深めたことで、受講生同士でやりとりできるツールが生まれ、活動にお互いの知恵や力を活かすネットワークができている。すでに場をもつ受講生や活動のノウハウをもつ受講生だけでなく、新たな一步をこれから踏み出す受講生こそが、だれかにとっての力になることが対話型の講座やグループで行った相談会を通して伝わった
- 地域ケアプラザのコーディネーターや区民活動支援センター職員の参加により、その担当地域や担当分野における具体的な事業の展開、継続につながる事例がみられた
- 大学研究者、地域貢献企業、NPO法人代表、中間支援組織等さまざまな立場のスピーカーを迎えたことが、ひとりひとり多様な受講生の動機に働きかけ、地域づくりを我が事ととらえることにつながり、プラン作成へ反映されている
- 自治会町内会の人と卒業生・受講生との交流会は、受講生が自地域の自治会町内会への視点をもち、関心を高める効果があり、自治会町内会にとっても新たな人財に出会い、活動を活性化させる契機となるという、双方にとって実りの多い機会となった
- 区内で長年に渡り活動する法人が協働運営することで、区と法人の顔の見えるネットワークが活かされ、さまざまな地域活動にピンポイントでつなげることができた

自由記入欄

- 就労しながら地域活動に取り組む人が増える中、今回の受講生も就労中の方が多く、土日や平日夜における中間支援組織の相談支援をプランに掲げる受講生がいる等、そのニーズが高いことが事業を通してより一層感じられた。受け皿となる区民活動支援センターとの連携を考える上で大きな課題となっている
- ローカルメディアの分野を中心に地域づくりをテーマにした起業やSNSを利用したコミュニティ活動等、経済活動と地域活動の両立が見られるようになっている。今後、この事業をさらに充実したものにしていくために、公的資源のみならず、地域密着の民的資源等、多様な主体の力を借りた事業運営が求められる

(役割分担)

事業項目	親がめの役割	区の役割
1 企画及び関係機関連絡調整	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企画 ・ 関係機関等との連絡調整 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企画 ・ 関係機関等との連絡調整
2 広報及び受講者の募集	<ul style="list-style-type: none"> ・ 募集チラシの作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受講生への連絡 ・ 募集チラシの作成補助
3 講座当日運営及び備品等の準備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会場確保 ・ 資料印刷 ・ 運営管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会場確保 ・ 運営管理
4 報告書の作成等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学びのまとめのとりまとめ ・ 報告書の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学びのまとめのとりまとめ ・ 報告書の作成補助
5 事業の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実施

第9期 神奈川区地域づくり大学校 招募要項

- 対象
・区内在住、在学、在勤の方
・これから神奈川区内で何か地域活動をやってみたい方
・神奈川区で自治会町内会等の地域活動(青少年指導員、スポーツ推進委員、民生委員・児童委員、PTA、子ども会、おやじの会など)に関わっていて、新たな活動や活動の工夫を考えている方
・上記以外で神奈川区内の地域活動に関わっていて、新たな活動や活動の工夫を考えている方
- 定員 20名程度 (応募多数の場合は選考)
- 受講料 無料 (交通費等はご負担ください)

- 申込事項
 - 氏名 (ふりがな)
 - 住所
 - 電話番号 (連絡をとりやすい番号)
 - Eメールアドレス
 - 年代 (例: 40代)
 - 現在参加している地域活動
 - 加入している自治会・町内会の名称
 - 自治会・町内会からの推薦の有無 (推薦は必須ではありません)
 - 参加動機とこれから地域でやってみたいこと (100~200字程度) ※
 - オンライン (Zoom) の参加について
 - 参加できる
 - 使ったことがない
 - 自宅にインターネットがない
 - 保育サービスを希望する場合は、お子様の年齢

※⑨【参加動機とこれから地域でやってみたいこと (100~200字程度)】

あなたの「参加動機」と「これから地域でやってみたいと思っていること」について教えてください。
(書きいただいた内容は、講座の中で他の受講生と共有させていただきますのでご了承ください。)

上記の申込事項をご記入いただき、申込フォームまたはEメール、FAX、郵送にて、
神奈川区役所区政推進課までお申し込みください。 申込締切: 8月31日 (木) 必着
9月中旬頃までに結果をお知らせします。

・主催 神奈川区連合町内会自治会連絡協議会 / 神奈川区役所 / NPO法人親がめ

・協力 社会福祉法人 横浜市神奈川区社会福祉協議会

・申込先 神奈川区役所区政推進課 (担当: 辻岡・宮前・後藤)

問合せ先 〒221-0824 横浜市神奈川区広台太田町3-8

電話:045-411-7026 FAX:045-314-8890

Eメール:kg-tiiki@city.yokohama.jp

申込フォーム



第9期 神奈川区地域づくり大学校

つながりが生み出す 新しい地域づくり

~人・コト・縁 ギュギュっとつながる~

受講生募集中

募集期限
2023年8月31日(木)

保育サービスあり
6ヶ月以上~未就学児
(定員5名)



詳細はこちら

変化する時代に、地域づくりの現場で見えてきたこと、それは人にとって、まちにとって「つながりは生きる力」であるという確かな軸でした。

令和5年度も「地域づくり」と聞いて、心にピーンと響く人たちを募り、ともに深く学び語り合う大学校を開講します。

地域を越えたネットワークを創りながら、“こうなったらしいな”を形にしていくプロセスや対話の手法を体験する全5回+αです。

第1講

9月24日(日)

時間 13:00 - 16:00

場所 かなーちえ
NPO法人まち・学生プロジェクトplus
常務理事 原島 隆行 氏

ここからはじまる地域づくり大学校 ~笑って語ってすがろくワーク~



すがろくを使い、ゲーム感覚で楽しく仲間づくりを進めます。また地域活動の現状を知ることで、これからの地域づくりについて考え、語り合います。

第2講

10月22日(日)

時間 13:00 - 16:00

場所 かなーちえ
宇都宮大学
准教授 石井 大一朗 氏

変化したぞ! 地域づくり ~新たなポイントを伝授します~



「誰もが地域づくりの仲間となるための6つの視点」を学び合い、さらに、ひとりひとりの力や資源を交換するワークを行います。

第3講

11月19日(日)

時間 13:00 - 16:00

場所 かなーちえ
税理士法人 ワタラ・ジャパン
代表税理士 NPO法人
神奈川区多文化共生の会 岩間 良一 氏

いろいろな活動のカタチ ~先輩たちが語る♪私の原動力~



身近な暮らしの中にある活動の数々を紹介!
いろいろな人の経験や知恵にふれ、自分のアクションプラン(※)へのアプローチ方法を仲間に探ります。

神奈川区地域づくり大学校 5つの柱

1 対話力をつける

自分の中にある「○○したい」という動機を掘り起こし
仲間たちとの対話ワークをおとして
さらに問い合わせ続ける

2 知る力をつける

地域の現状や
さまざまな活動を知り
アンテナを磨く

3 地域活動に 必要なスキルを学ぶ

地域づくりに欠かせない
アイスブレイク
ファシリテーションなどの
技法を身につける

4 実践の場から 感じる

地域の実践の場へ出向き
ココロとカラダで
いろいろなコトを体感、
吸収する

5 ネットワークに つながる

卒業後もそれぞれの
具体的なアクションが
つながり合ふように
チームで知恵と力を
寄せ合おう

全員集合! 交流会

12月17日(日)
13:00 - 16:00

場所 神奈川区役所
5階 大会議室

ゲスト しあひらすヨコハマ連絡
高台町内会
荒井 聖輝 氏

受講生、卒業生と
自治会・町内会との
ネットワークづくりを
応援します。

第4講

1月21日(日)

時間 13:00 - 16:00

場所 かなーちえ
横浜市市民協働推進センター
副センター長 横浜市
社会福祉法人 横浜市
神奈川区社会福祉協議会 韓昌熹 氏
岩本 浩 氏

アイデアを磨く! ~対話×ひらめき×対話~



これまでの気づきや学びを振り返りながら、さらに
発想力をフル回転!仲間との対話を通して自分の
アクションプランをより具体化していきます。

相談会



各々のアクションプラン
を実現するための
相談会です。
数人で日程を合わせ
ます。アイデアや情報
を持ち寄りましょう。

第5講

2月18日(日)

時間 13:00 - 16:00
場所 神奈川区役所
5階 大会議室

終わりがはじまり! ~やりたいことを地域につなげる アクションプラン発表会~



約5ヶ月の学びと「終わりとともににはじまる!」みんなの
アクションプランの発表会です。互いのプランが
掛け算されて、地域の未来が変わりはじめます。

「現場へGO!」 地域の現場へ 実習体験

地域のさまざまな「現場」へ
出向く活動体験タイム。
実習先の紹介や日程については
講座内でお知らせします。
(希望制)



区内で活動する コーディネーター とつながれます♪

区内には神奈川区社会福祉協議会、
地域ケアプラザ、神奈川区民活動
支援センター、かなーちえ等、
コーディネーターがたくさんいます。
コーディネーターは顔と顔、情報を
つなぐ、皆さんのサポート者。

地域づくり大学校では
コーディネーターと
知り合い、つながる
きっかけをつくります。

【神奈川区地域子育て支援拠点かなーちえ】
JR東神奈川駅、京急東神奈川駅 徒歩3分

※全回、会場参加を基本とします。状況によってオンラインで実施する場合がありますので
ご了承ください。保育サービスは会場での受講のみ受け付けます。

※アクションプランは地域で実践したい取り組みを具体化した計画です。アクションプランの
提出をもって卒業となります。

※日時・会場・講師・内容が一部変更になる場合があります。